

県内外のペタンク愛好者をつなぐ

彩の国ペタンク通信

VOL 12

発行者：埼玉県ペタンク協会

企画・編集：広報部（中村）

Tel・Fax：048-536-6939

omoikkirifatoj3@nexyzbb.ne.jp

〈 新年を迎えて 〉 埼玉県ペタンク協会理事長 井上 勇司



日の長さも少しずつ伸びてきている昨今ですが、皆さんいかがお過ごしですか。私も今年歳男、早いものです。ペタンクにかかわって20年になるうとしておりますが、県の理事長として皆さんにお願いがあります。私は幸運な事に、ペタンクを始めた時から技術的な部分では世界的レベルの環境におかれておりました。世界選手権等を目のあたりにして、日本の今後の環境がどうあるべきなのかを考えさせられたものです。如何したら強くなれるのか？ 強いチームがどうしたらできるのか？ 良い指導者がいればそれで解決なのでしょうか？ 人が目的を持ち、自主的に鍛錬し、色々気付いていく中で最も大事な事は、『真の意味で隣人を大切にできるかどうか、仲間を大切に出来るかどうか』です。自分だけの事しか考えられない風潮の中で、強いチームは創れません。隣人を大切にできる環境を皆で創っていけるように県の組織も活動をしていくつもりです。皆さんのご意見等お寄せいただければ幸いです。ともかく楽しくペタンクをやっていけるように、みんなで頑張りましょう。

〈 第27回 日本選手権を振り返る 〉

平成24年10月27日、28日の両日、広島県尾道市で行われた第27回日本ペタンク選手権大会に、参加してまいりました。女子5チーム、男子3チーム総勢24名での参戦となり、各々奮闘してまいりましたのでご報告申し上げます。まずは大変素晴らしい報告からさせていただきます、前年度の優勝チームである埼玉女子Aチーム（井上まち子、今泉君子、大澤廣美）が優勝し二連覇の偉業を達成しました。一口に二連覇と言ってしまうと簡単に聞こえるかもしれませんが、これは実は大変なことだったので。去年徳島にて歓喜の優勝を遂げて依頼、この三人で出る試合は「勝ってあたりまえ」という雰囲気の中で常にプレッシャーがかかる闘いを余儀なくされ、作戦のくいちがいや焦りでなかなか結果が出せない辛い日々を過ごしていました。さらに追い打ちをかけたのは、前年度優勝チームだけが着るレインボージャージを着て出場しなければならなかったことで、もちろん名誉なことではあるのですが、平常心で臨みたいところに、余分なプレッシャーを抱えこむことにもなる「もろ刃の剣」でもあるのです。現に男子の前年度優勝チームはこれだけが理由ではないかもしれませんが、予選で敗退してしまいました。しかし我が埼玉女子Aチームはそれら全てを乗り越えて、強豪チームを撃破し、更には10対3からの大逆転劇などを演じながら、もの見事に優勝を勝ち取りました。埼玉にとって価値ある連覇を達成してくれました。偉業を成し遂げた三人の身体が、埼玉選手応援団の手によって二回三回と宙に舞い、雨上がりの青空に大きく美しい虹がかかり、忘れえぬ感動の瞬間がそこにはありました。埼玉女子Aチームの皆さん大変だとは思いますが三連覇目指してこれからも頑張ってください。



さて快挙はまだまだ続きます、埼玉男子Bチーム（中村孝、宮城修一、泉忠明）が公約通りのベスト4入りの第3位を獲得しました。昨年は埼玉県予選で代表の座を惜しいところで逃してしまいましたが、その後しっかり話し合い練習を重ねて立て直し、県予選を2位で通過し、8月の関東ブロック選手権大会に優勝するなど上昇気

流に乗って本大会を席卷し、並みいる強豪をなぎ倒して見事に第3位を獲得してくれました。埼玉はよく他県から「埼玉は女子が強いんですね」と言われていました。埼玉男子Bチームの皆さんありがとうございます。これからは「埼玉は男子もなかなか強いんです」と胸を張って対応ができます。皆さん今後も更に上を目指して頑張ってください。

さて善戦という言葉が一番しっくりくるチームがありました。埼玉県女子Eチーム(吉澤君代、小池良子、根岸照子)です。このチームは埼玉県予選が4位で本戦出場が危ぶまれていましたが、なんとか出場枠が舞い込み、最後に埼玉県代表チームとなりました。しかしこのチームは弱点だったチームワーク不足を3人で練習する機会を多くすることで解消し、チーム力を緩やかに上昇させながら本戦に突入し、見事な闘いぶりでベスト16、第9位を獲得してくれました。今大会のさわやか1は間違いなくこのチームだったと思います。

次に善戦したのは埼玉女子Cチーム(佐々木久子、綾部栄子、泉恵美子)でした。決勝リーグ初戦で敗退してしまいましたが、予選の初戦で敗退して絶体絶命の中で立て直し、後の2戦を連勝して決勝進出するなど奮戦していました。

さて他の4チームは奮闘空しく予選敗退となってしまいましたが、このような大きな大会にはやはり魔物がいるのでしょうか。日ごろの力が発揮出来なかったり、「運」がなかったり、でも何を言ってもそれは全て言い訳でしょう。反省すべきことを反省し、今後につなげて、結果をだせる選手に成長していきましょう。

もう一つ報告しておきたいことがあります。我が埼玉県ベタンク協会の河部耕喜会長が、わざわざ尾道まで、応援に駆けつけてくれました。総勢8チームの試合をくまなく回り、励ましの言葉をかけつづけて頂き、勝利のシーンでは涙を浮かべて、自分のことのように喜んでくれました。これが選手一人一人にどんなに大きな勇気を与えてくれたことでしょうか。本当にありがとうございました。

そしてもう一人、埼玉県ベタンク協会の吉澤誠事業部長が選手の水分補給や諸々のお世話を一手にやってくれました。まさに『縁の下の力持ち』そのままにご尽力頂きました。更には川本の柴田さんをはじめ、秩父の応援団の皆さんからも力強い応援を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、我々埼玉選手団がまとまって写真を撮ったり、円陣を組んだり、仲間の応援をしたりしている姿を見て、他県の人たちが「埼玉は団結していますね。まとまっていますね。」と随所で声をかけて頂きました。これは我々にとっては当たり前のことながら、大変喜ばしいことなのではないかと感じました。まさに埼玉の誇りそのものではないでしょうか。これからもこの「埼玉魂」を忘れずに、みんなでベタンクを楽しんでいきましょう。

埼玉県ベタンク協会事務局 稲垣 政英 男子Cチーム

事務局が振り返って、多くの事を語られましたが、加えて、各代表選手一人一人に総括をして頂きました。埼玉の会員の皆様には、日本選手権で戦った代表選手の様々な思いを感じてもらって、こんな魅力のある日本選手権に、是非自分も参加したい、見に行ってみたいと考えて頂ければ、広報の甲斐があると考え、取材しました。

「3年間の日本ベタンク選手権大会」 井上 まち子 女子Aチーム

日本選手権にチーム作りをして臨んだ参加は平成22年、第25回埼玉県開催でした。勿論、会場地であり主管です。実行委員会事務局として多くの準備に追われ、選手としての余裕もなく戦績もいま一つだった。自分の日本選手権へ臨む姿勢の甘さからくる結果、言い訳など出来ない悔しさと辛さの残る大会だった。翌年は第26回徳島、大会への目標を強く持ち、自分を反省しながら練習に励んだ。試合1つ1つを冷静に焦らず集中しようと夢中でベタンクをした結果、たどり着いた処が優勝だった。



我慢した時間を過ごし、仲間にはすがり涙が止まらなかったことを今も覚えている。そして第27回は広島、2連覇を囁かれプレッシャーも大きかった、レインボーシャツに向かってくる相手に動揺せず、どう自分の心をコントロールしてチームに尽くせるかの思いはめぐった。予想のつかない他県チームは強豪揃いと聞くと不安もあったが、「初心に帰って臨むこと」と「互いのプレーを信じて行こう」と決心を固めて進んだ。苦しい場面は

何度もあったが乗り越えることが出来た。そして最後の決勝戦だけはレインボーシャツに恥じないように！そして楽しんで行こう！と言葉を交わして2連覇が達成できた。

この日本選手権3年間の歩みを考えたとき、振り返れば傍にいつも埼玉県の応援の笑顔があった。辛いことを共有し、大変な事を協力し成し遂げてきた絆を大切に多くの仲間が、自分たちのことのように喜び励ましてくれた。心から「ありがとう！」がいっぱいです。そして埼玉の仲間たちが誇らしいとも思いました。優勝はその埼玉の皆の心がもたらしてくれたといっても過言ではないと思っています。そして常日頃から埼玉の雰囲気豊かにし、舵取りをしていただいている会長や理事長の人に尽くせる思いに感謝しています。技術だけでは、頂点は遠い。強い信念と信頼、人を大切にすることを忘れてはいけないことをあらためて痛感し、再度日本選手権に挑戦していきたいと思えます。



女子Aチーム 今泉 君子

2連覇でき、大変嬉しいです。レインボーの重さに耐えられるような試合をしようと考えて望み、見事優勝を勝ち取ることが出来ました。90歳の選手のプレーには、驚きの連続でした。今回の試合で諦めない自分を見つけることができました。優勝連覇を繋げられますよう、一生懸命これからも努力します。沢山の皆様にお世話になり、心よりお礼を申し上げます。

女子Aチーム 大澤 廣美

日本選手権では、8試合戦いました。そのなかでとても有難かったことがあります。それは、水分補給の時間もない時に、手元までペットボトルのお茶を持ってきて貰ったことです。その方達も選手として戦った後にも関わらず、親切にして頂きました。そして、応援をしてくださった皆さんに感謝の気持ちで一杯です。



女子Bチーム 渡辺 真由美、興津 里子、清水 葉子

県予選で2位となり、広島の堅くて速いテランという情報を元に練習を重ねて迎えた本番。練習の効果を出せず、対戦相手の戦術に対応するのに苦慮し、予選ブロック1勝2敗の3位で予選敗退という残念な結果になりました。心残りは、テランに対応した投球を出せなかったことで心を惑わし、さらに悪い結果につながってしまったこと。もっとメンタル面で力をつけて、楽しくプレーをしながら、よい結果を出せるようにしたいと思っています。

女子Cチーム 佐々木 久子、綾部 栄子、泉 恵美子

第27回日本ペタンク選手権に出場して思うことは、県代表として、予選を2勝1敗で辛くもブロック1位で決勝トーナメントに進むことができたが、1回戦で惜敗してしまい、代表としての責務を果たせなくて申し訳ない気持ちでいっぱいでした。3人で一生懸命に練習を重ね、十分とは言えませんが、どんなテランでも、どんな相手でも対応出来るように、少なからず自信を培って挑んだつもりでした。今考えると大きな思いこみであって、結果が私たち全ての實力だったのですね。落ち着いて戦えたかというところとゼロに等しかったようです。どんな状況下



でも平常心を保って判断し、迎え挑むことができるかが真の強さだと今更ながら痛感しているところです。私たちは技だけでなく、心身ともに鍛錬がいかに大切かを学びました。日々の努力は裏切らない。大切な仲間と叱咤激励しながら楽しくペタンクをしたいと、益々意欲が湧いてくるこのごろの3人です。

女子Dチーム 大野 一恵、大野 好子、富田 敏江

ペタンク歴の浅い私達にとって、思ってもいなかった代表選手の一員と



なり大会へ参加して来ました。経験不足、力不足を感じながらも、選手の方々との交流の中、大変良い体験をさせて頂いたと感じております。秩父の仲間が、一緒に応援に来てくれました。その応援は私たちの背中を押して、持てる力が発揮でき、1勝できたように感じます。改めて仲間の大切さ、暖かさを感じました。また、埼玉の選手や応援の皆さんの声援を受けました。とてもうれしかったです。ありがとうございました。

女子Eチーム 根岸照子、小池良子、吉澤君代

私たちEチームは、出場が決まってから埼玉県代表チームとして恥ずかしくない試合をしよう、決勝トーナメントに出場できるようにしよう話し合い、他の代表選手と共に合同練習に取り組んできました。1人1人は控えめなEチームは、個々のスキルの精度を高めるとともに、チームワークを優先に練習試合をしてきました。その結果、予選ブロックを2勝1敗の2位で通過し、決勝トーナメントも1勝し、第9位に入ることができました。とてもうれしく思っています。

井上理事長や河部会長、吉澤誠さん、中村敦子さんなど選手以外の方たちの応援ありがとうございました。励ましの声と思いを背中に強く感じ、力になりました。感謝しています。私たちEチームは、次に向けて練習を励みたいと思います。



日本選手権に参加して 男子Aチーム 清水 英央

実際の試合と観戦の中で2つのことを思いました。1つは、「劣勢の時にいかに試合の流れを変えられるか。」ということです。技術的なものなのか、精神的なものなのか、はたまた根性なのか未だわかりませんが、これができるチームでないと勝ち上がることは出来ないと感じました。二つ目は、点の取れるメニューでは貪欲に点を取るべきであるということです。そのときに逃したことにより結果的に負けてしまったゲームほど悔しいことはありません。単純なスポーツだけに、逆に奥が深いスポーツであるということを感じています。心・技・体そして信頼がうまくかみ合ったチームに、勝利の女神は微笑むのだ！ということを実感した大会でした。



男子Aチーム 今泉 利明

我がチームの予選ブロックは、二位と三位チームが集まった強豪チームとの試合で、残念ながら1勝2敗で予選落ちでした。抽選は私が引きましたのでチームメイトに申し訳ないと思ってます。練習不足もあるけど。最後に「奇跡は決して諦めない者にしか訪れない」座右の銘にて終わります。大変お世話になりました。

男子Bチーム 中村 孝、宮城 修一、泉 忠明



私たちBチームは、日本選手権ではそれぞれが涙をのんできたので、第27回こそ表彰台を目指し、日々の練習に取り組んできました。苦戦したのは予選の2試合と準決勝の3試合。予選第1試合は大阪Bチーム、点の取り合いで中盤まで一進一退となり、終盤に流れをこちらに持ってきて接戦を制した感がありました。日本選手権初勝利でした。3年目にして初勝利、感慨深いものがありました。得点差に見えない、まさに粘り勝ちでした。予選第2試合は広島Cチーム、とんとんと10点まで優勢に試合を運びましたが、最後の1点がなかなか取れず、投げきりのメニューが続き、少しずつ挽回されました。最終メニューでは、寄せ切れず防御するも、投げきりでいいところもなく、4点を取られ逆転負けの苦い1敗でした。広島チームの粘り勝ちでした。予選3試合目は、1勝1敗同士が当たるので、私達にとって決勝に進める大切な試合となりました。結果は圧勝でしたが、気持ちを引き締めていきました。予選1敗したことが、緊張感を持って試合に臨め、

チームワークを高め、トントン拍子に勝ち上がることができたと振り返れます。準決勝戦は、歯車が狂ったとしか言いようがない負け方でした。振りかえると目標を達成して一安心してしまったように思います。集中が切れていなかったのは泉さんだけだったように思います。結果3位だったのですが心の中で不甲斐ない試合をしてしまった思いと、立て直しできなかった未熟さを胸に雪辱したい気持ちです。最後に、応援してくれた皆さんありがとう。サポートしてくれた皆さんありがとう。大会を運営してくれた地元広島の皆さんありがとうございました。オリンピックのメダリストが感謝の気持ちを述べている思いがわかるような気がします。今後も精進して頂点を目指します。

男子Cチーム 高橋 憲次

日本選手権大会は埼玉県予選から本番の広島大会まで自分としては「勉強、勉強！」の期間であったように思います。特に埼玉予選については、トライするチームのレベルが高く、苦戦の連続でした。予選を通ったその夜「なんとビールが美味しかったことか」忘れることが出来ません。自分としては予選出場が埼玉大会時に次いで2度目であり、1点の重みがどれほどのものかわかっているがの戦いであったにも拘らず、失敗の連続でよく代表の座を勝ち取れたと今も思っています。予選から本戦までの3カ月は、準備期間として練習に励むべきところ、ペタンクの調子を落としてしまい、何をやってもうまくいかずいつも谷底にいるような気分でしたが、選手権挑戦チーム合同の夜練習で気分転換と調子の確認を重ね、何とか間に合わせることができたという感じでした。選手権当日は「平常心とここ一番の集中力」で相手に立ち向かおうと心に誓い、試合に臨んだのですが、予選に於いて2勝1敗ながら得失点1点の差で4チーム中3位の成績で残念ながら予選敗退でした。「敗因は？」と問えば、「気負い過ぎで力の入りすぎかな」と考えております。日本選手権は各都道府県からペタンクの猛者が集まるすごいところとの認識が強すぎたのかなと反省もしております。

(選手権という名前に呑まれちゃったかな・・・)

ペタンクはポワンテ、ティール、ミリュウの役割があって、各々がそれを全うすることが勝ちにつながると教えられもし、自分でもそのように考えてきました。しかし、選手権を見る限り必ずしもそうではないと思っています。それぞれの役割は大事ではありますが、「寄せがゲームを創り、最後の1球が勝負を決める」これが自分の目指すペタンクであると日本選手権に参加させて頂いての感想です。



男子Cチーム 山名富喜 『予選Cグループ、1点の重み』

我が埼玉県Cチームは、予選ブロック3位という結果に終わる。2勝1敗で3チームが並んだ。得失点差は、兵庫Aが+3で1位、京都Cが-1で2位、埼玉Cが-2となり、予選3位になった。得失点差1点で決勝進出を阻まれた。2回戦の京都Cに11:4の大差で破れたことが、悔し涙の原因になるとは思いもやらぬことだった。京都戦の序盤戦は1メーヌ2点、2メーヌ2点と順調のすべり出しであったが、両メーヌ共に追加点のチャンスはあった。何が不足だったのか、省みると私自身が個人プレーに走ってしまっていた。気づいたのはゲーム終了後である。約6年間のペタンク歴の中で、得失点の結果争いで決勝トーナメント進出を決めるのは初めてのことだった。対戦結果で決着がつくことが殆どであった。得失点差の決着、一点差で・・・、1球の重みを思い知ることになった。今後の戦いに課せられた1球の大切さ、チームメイトの1球は、自分の1球でもあるということ肝に銘じる。そういう気持ちにしてくれた京都Cチーム・第27回日本選手権に、ありがとう。

ペタンカーとして日本最高峰の戦いに挑むとき、先人の体験は貴重なものです。日本選手権に誌面を大きく割きました。文面からにじみ出る選手の思いを糧にして、皆さんの取り組みに活かしてください。(担当;中村)

《 三尻中学校ペタンク講習会 》

平成24年11月10日(土)に、熊谷市立三尻中学校において、埼玉県ペタンク協会指導部(6名)と川本

ペタンククラブ(3名)の協力により、教育の日のペタンク体験講座を行いました。三尻中学校では、毎年教育の日に体験講座の要請を受けて実施しています。この日は晴天に恵まれ、9時30分よりグラウンドに移り、受講者42名(男子32・女子10)を9班に分け、山田さんの指導のもと、プールの握り方から、投球フォームを楽しく実演し、直径1mの中へ入れるドゥミポルテと、ラッフルティールの練習をしました。その後グループ戦で距離7m直径1mへ何球入るか、当てるか、得点の高い順に列が変わるゲームをしました。ゲーム感覚なので、皆夢中で投げていました。少しペタンクの楽しさが伝わったと思います。最後はグループ内でチーム編成をし、ゲーム(トリプルス)で終了しました。三尻中学校は生徒会を中心に生徒自ら作る学校を目指して活動しています。自分が希望した講座なのでしっかりと指導を受けていました。体験講座の感想を送って頂きましたので、何人かの感想をご紹介します。



僕はペタンクを初めて知りました。やってみるとおもしろくて楽しかったです。 1年;青山 柊
 この間はとても楽しかったです。ペタンクはおもしろかったので来年もやりたいです。 1年;知念祐樹
 ペタンクってやつは、初めてやったけど、ちょっと難しかった。でも、教えてもらって少しできるようになった。楽しかったです。ありがとうございました。 1年;三好あおい
 ペタンクは初めてで、少し感動しました。チーム戦で得点を競ったときは、とても楽しくできてよかったです。ペタンクをいろいろ教えて頂きありがとうございました。大会等で頑張ってください。 2年;池田恵実里
 ペタンクを優しく教えて頂きありがとうございました。おもしろくてとても楽しかったです。 2年;井上優望
 去年、僕はペタンクの講座をやり、おもしろかったので今年も第1希望に書きました。山ちゃんを始め講師の方々の話がとてもわかりやすく、おもしろかったです。試合でプールを思ったところに投げられた時はとてもうれしかったです。将来ペタンククラブに入るかも知れません。ありがとうございました。 2年;佐藤篤法
 ペタンクは、1年の時に体験講座でやって、楽しかったので3年でできると知ったとき「ヤッタ!」と思いました。とても優しく指導してくださり、以前よりうまくなりました。機会があったら是非皆さんとやりたいです。 3年;嘉鳥哲平
 「体験講座でペタンクを教えて頂きありがとうございました。自分は3年間全て体験講座はペタンクでした。1年生の時にペタンクをやってからペタンクのおもしろさがどんどんわかってきました。自分は今年が最後ですが、来年も再来年も三尻中学校でペタンクの指導をよろしくお願いします。 3年;中村鳳生
 体験した生徒の皆さんから、将来のペタンクを背負う選手がでることを期待しています。(担当;宮城、中村)

《 第6回 江南オープンペタンク大会 》

11月4日(日)に第6回江南オープンペタンク大会が、初めて晴天に恵まれ、雨の心配もなく、大会がスムーズに行なわれました。優勝は、Y・K・T(山名富喜、小池和子、高鳥宣正)で、初めて優勝カップが県外の東北の福島の会津に持って行かれてしまいました。今思えば、「婚約パワーだったのか!」、また、病気療養で戦線を離脱していた市村氏が、復帰第1戦を江南大会に絞り、見事、坂戸スリジェ(稲垣政英、市村喜美夫、塩田邦彦)が準優勝しました。

優勝 Y・K・T

2位 坂戸スリジェ

3位 坂戸片柳A

(山名富喜,小池和子,高鳥宣正) (稲垣政英,市村喜美夫,塩田邦彦)(高橋憲次,井上利一,綾部栄子)

踊る埴輪杯



優勝 チャレンジャー2 2位 Bon Voyage千葉 3位 スバルB
(吉澤君代,金井塚清子,大竹千加子) (友野憲子,保坂和正,三橋 勉) (東海林 淳,町田義則,柳澤佳寿)

マロン杯



江南大会は、52チームの参加でした。一番昼の短い時期に行なう大会なので、参加選手の皆様には、時間制限を設けて、のびのびと試合ができないご不便をかけ、且つ、寒さを覚える11月の初旬に、決勝戦と3位決定戦は、毎年夜間照明のカクテル光線のもとで行なってもらうことに、主催者は申し訳ないと思いつつも、選手の皆さんは夜間照明のもとで試合をする気分もいいなあ、と感じていたそうです。(担当;中村)

《第6回三芳町オープンペタンク大会》



11月17日(土)雨天が予報されていた朝、曇天の今にも降り出しそうな雲の流れにびくびくしながら、第6回三芳町オープンペタンク大会が、三芳町民グラウンドにおいて52チームが参加して実施されました。午前中は雨も降らず、日差しはなくても冷え込まずに4チーム総当たりの予選リーグをこなしました。日暮れが早い

ので40分の時間制限とし、笛で初めて、40分の笛のなったメニューで終了し、同点もありとしました。決勝トーナメントは、上位26チームが進出し、熱戦を繰り広げました。グラウンドなので平らに見えるテランでしたが、結構アンジュレーションがあり、苦戦をしたチームもありました。順々決勝戦から時間制限なしで行われ、日が傾き始めた準決勝戦、決勝戦はグラウンドに照明を使いながらの試合になりました。さらに決勝が始まる少し前から雨が降り始め、決勝戦と3位決定戦は雨中の試合となりました。



表彰式は、雨の中簡単に執り行われましたが、最後まで三芳町の皆さんにはお世話になりました。雨の中、後片づけが大変だったと思います。ありがとうございました。

入賞した皆さんは、次の通りです。



優勝は、終始チームワーク良くまとまった「川本B」の井上まち子、吉田茂子、菅原重子組(写真左)でした。

優勝 川本B

2位 上尾ペタンク倶楽部A

3位 彩友輝

2位は、グラウンドテランでぐんぐんと実力をつけてきた「上尾ペタンク倶楽部A」の吉田利雄、吉田喜美子組(写真中)でした。3位は、完全復活を遂げた市村喜美夫率いる「彩友輝」の市村喜美夫、中村孝、稲垣政英組(写真右)でした。おめでとうございます。(担当;中村)

《 第6回川本夫婦ペタンク大会 》



11月18日、前日の雨が上がり、真っ青な空の下、第6回川本夫婦ペタンク大会が、川本公民館おまつり広場のご存じ砂利テランで開催されました。晴天とはいえ、冬の気圧配置のため赤城おろしが吹きすさぶ、とっても寒い1日になりました。ところが、集ったのは夫婦40組、北は岩手県から西は愛知県まで県外18組を迎えて



の熱い大会となりました。日没まで日が短いこともあり、40分の時間制限を取って、11点先取で行われました。

予選は4チーム総当たりのリーグ戦、1位と2位が決勝トーナメントに進出し、8チームがカドラージュ戦を行い、ベスト16を出して、決勝トーナメントを進めました。「そーくん&マーサ」の井上勇司、まち子夫妻が、予選リーグからずっと集中をきらさず、熟練した試合運びと技術で他を寄せ付けずに、優勝しました。2位は「ももかちゃん」の今泉利明、君子夫妻、3位は「江南きじ丸マロン」の中村 孝、敦子夫妻、4位は優勝した「そーくん&マーサ」唯一苦しめた「フラワー・ダビ」の泉 忠明、恵美子夫妻でした。



優勝「そーくん&マーサ」



2位「ももかちゃん」



3位「江南きじ丸マロン」



4位「フラワー・ダビ」



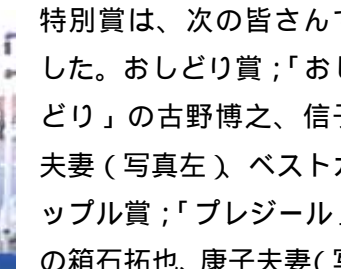
おしどり賞「おしどり」



ベストカップル賞「プレジール」



ベストドレッサー賞「夫婦道」



写真中) ベストドレッサー賞

賞;「夫婦道」の阿部道知、妙子夫妻(写真右)です。おめでとうございます。

砂利テランに苦労しながらの試合は、11点まで達せず、時間切れでラストメヌとなる試合も多く、いかに大量点を先に取るか、取らせないかの戦略と、コンディションをいかに崩さず支え合っていくかのチームワークが試されたともいえます。そこで勝ち上がっていくというのは、運も味方につけながら、一投一投をしっかりと投げていくという集中力も必要でした。

川本の皆さん、毎年のことですが、趣向を凝らし、楽しい大会をありがとうございました。また来年、参加できるように、夫婦そろって元気にペタンクをして参りましょう。(担当;中村)

《 審判部からのお知らせ 》

規則講習会の要請があれば行います。各団体のペタンクの質の向上を図るためにもご活用ください。

連絡先は 審判部長 柳澤 までお願いします。電話 048-577-3613

Eメール nao8730-oz@fork.ocn.ne.jp

【埼玉県ペタンク協会：広報部紹介】

広報部員 **中村 孝(部長)** 面倒くさがり屋の私が、定期的に広報誌を出すなんて、ムンクの「叫び」ですね。

泉 忠明(副部長) 別名、キリスト様

泉 恵美子(部員)

語学とワードの編集力に長けた御意見番。

会計。いつもにここに、惜しまず協力。西部地域担当。

大山 綱秀(部員)

塩田 邦彦(部員)

秩父地域担当部員。秩父のことならすべてお任せ。

西部地域担当。特に坂戸。やるときはやります！

綾部 栄子(部員)

雨宮 則雄(部員)

選手会担当。ずっこける言動で癒しも担当。

東部地域担当。ペタンクでは経験豊富、何でも聞いて！

広報部は、良い広報誌を目指して、今後も取材し、工夫して誌面を楽しめるものにしていきます。